

差別化素材として急伸長するクリルオイル

編集部

南極オキアミから抽出した脂質成分 クリルオイルが今、欧米で注目されている。米国市場ではDHA・EPAサプリメントがここ数年急成長しており、2ヶタの伸びを続けているが、 ω 3素材の中でも、さらに付加価値の高い差別化素材としてクリルオイルは使われており、 ω 3市場全体に占める比率は高まっている。

本稿では日本でも市場で動き始めたクリルオイルの概要、サプライヤー状況などについてみていく。

資源としての特徴

南極オキアミは、南極海に生育する海洋バイオマスの中で、その資源量の多さや未利用であったことで1970年代から注目されていたが、漁獲に関わる経費がかかることから、2000年に入るまで有効利用されてこなかった。

近年、急成長している養殖産業が、餌の原料となるオキアミを求めて南極海に入るようになり、ようやく有効利用の途が拓け、その高い栄養価が注目されるようになった。

大型海洋哺乳類であるクジラが主食

としていることからわかるように、南極オキアミには豊富な栄養成分が含まれる。しかも地球上で最も人為的な化学汚染の少ない海域で摂れるので安全性の心配もない。

栄養的特徴

南極オキアミの栄養成分の中でも、特徴的なのが脂質成分で、リン脂質結合型の ω 3脂肪酸を主体に、海洋性カロテノイドであるアスタキサンチン、ビタミンA、Eなどが含まれる。

周知のとおり、DHAやEPAなどの ω 3は、かつおやイワシなどの魚油にも含

まれるが、南極オキアミの場合、 ω 3の大部分がリン脂質と結合した状態で存在しているのが大きな特徴。また、 ω 3は酸化しやすいため ω 3を豊富に含む製品の安定性の確保は加工上の大きな課題だが、クリルオイルはリン脂質結合型なのでトリグリセリド結合型に比べ酸化しにくいことと、強力な抗酸化物質であるアスタキサンチンが含まれているので、酸化が抑えられ安定性が高い。

機能的特徴

DHAやEPAの機能性は多くの文献に裏づけられているが、リン脂質結合